

## 対談「街づくり。路づくり。」

国土交通省都市・地域整備局街路課 廣瀬 隆正 街路事業調整官  
東北芸術工科大学環境デザイン工学科 小林 敬一 教授  
NPO CAN 代表 新関 芳則 氏  
広告プランナー 浅倉 かおり 氏

### 浅倉

山形市をはじめ、中心市街地の街づくりに、路づくりをどのように活かしていくのか、活かしていくためには、どのような街づくりを進めていくべきなのか。これまでの街づくりの経緯や実例を踏まえて、これからの展望を語る時間にしたいと思う。

まずは、新関さんから CAN の活動紹介と今後の課題をお願いします。



### 新関

NPO 法人 CAN の活動は、まちづくり、公共施設の有効活用、街を元気にしたい、そのような思いで立ち上げた。最初に山形市役所の一階ロビーを講演会場としてお借りして、細川護熙元首相の講演会を行った。次に、地元の人間の勉強と訪れた人々に山形の街を歩いてもらうための、「城下町やまがた探検地図」を作った。山形は、戦災・大きな災害がなかったため最上氏時代の城下町の道路がそのまま残っている。山形の街を歩いて回遊して欲しいとの思いから、各色別のコースを設定した。名所・旧跡・名刹・古刹・寺社・仏閣だけでなく団子屋・餅屋・漬物屋・コーヒー屋・ケーキ屋・ラーメン屋を載せ、歩く人の身になった地図を作った。山形のほかの地方との違い、道路が大きく変わって来なかった点に視点を置き地図を作った。交流人口の増加を考えなければ、今後、地方都市は成り立っていかない。

### 浅倉

私は広告プランナーとして、地元の TV、紙媒体などの広告やタウン誌の企画編集をおこなっている。大病の経験や取材から食の安全の重要性に気づき、山形のおいしい食べ物などを広めていく活動を行っている。山形の食文化を守ることは、環境問題の関心へ行き着く。自分で何が出来るかを考えると、マイバックやマイ箸の持参、なるべくバスを利用する生活などが上げられる。廣瀬さんからモータリゼーションスパイラルの話があったように、車から自転車・バスへ変換する生活が必要である。路づくりによるバスへの転換を進めるべき。

そこで廣瀬さんに、バスへの転換の成功した事例は、どれくらいの時間を要したのかお聞きしたい。

### 廣瀬

バスは、参入廃止を厳しく規制していた時代があったが、規制緩和でこれらがなくなった。結果として廃止が相次いだ。日本では公共機関の費用は、運賃で賄う、という考えが伝統的にある。これからは、公共が支援して民間が、市民の足を維持する仕組みを考える時期に来ている。

公共交通機関に自治体が支援する場合、なんのために支援をするのかを市民と事前に話し合い、ルールづくりをすることが必要。金沢や L R T を導入した富山は、ここを徹底的にやった。

### 浅倉

事例にあげられたヨーロッパ文化に見られるような調和のとれた街並みは、長い年月を経て得ら

れた。日本にこれを当てはめようとする長い歴史の後ろ楯がないと難しいのではないのか。ヨーロッパのように、住環境の嗜好、趣向がみんな同じであれば可能だろうが、日本では困難だろう。どうしたら景観を良く出来るのか。日本に混在するさまざまな建築デザインのテイストを、いったん全部やめにしなければ出来ないのではないのかと、いつも疑問に思っている。

## 小林

その前に、先ほど新関さんは山形の街を歴史的で何も変わっていない、昔のままだと述べられた。私は山形の道はすっかり変わったと述べた。実はこの認識の相違が大事。日常、車に乗り、駐車場に止め、ショッピングする分には、山形の幹線道路は格子状に整備されていると思っている。ところが新関さんの紹介した地図を片手にこの街を歩いてみると、昔の街道筋はこうであったのかとか、昔は丁字路であったという山形の昔の街の骨格が見えてくる。そうすると点在する蔵や堰や町屋の持つ意味が見えてくる。見方、行動の仕方によって、町は違った姿に見えてくるということ。だからこそ、こういったマップを持って歩き、まちづくりの視点を共有するのが第一ステップ。そうすると資源が見えてくる。そして次に、歴史的なものを残していくだけではだめで、活かしていくデザイン、アイデア、創造力が必要となる。これを継続的にやっていくことが肝心。

街並みがばらばらになってしまったのではないのか、という話だが、ヨーロッパの市街地もけっして継続しているわけではない。近代の歴史は伝統的なものを壊すことから始まった。逆に、日本の市街地も近代以前の膨大なストックを抱えているわけだから、それを掘り起こし活かしていくことこそが大事である。表面的な統一でもって景観づくりがなるという考えには反対である。まずは見方を共有することこそが大事である。

## 浅倉

私は高校卒業後、東京で暮らした時期があった。東京はいろんな情報に溢れていて、毎日の生活がとても楽しかった。外に出て歩くだけで楽しい。その後山形へ帰ってきたらあんまり楽しくない。なんでだろうと考えたとき、情報の量が少なくなったからではなく、東京では自分の目線が観光客気分だったが、山形では地元人の目線で見てしまうため新鮮みを感じないからだ、ということに気がついた。ところが食の大切さに気づき、山形のおいしいもの、専門性のある店を探し始めたら、俄然目線が観光客になる。自分の目線を変えるだけで、山形の街がどんどん楽しくなった。

次に新関さんにご自身の店が道路にかかるということについて伺ってみる。



## 新関

私は、市役所や山形新聞社近くの旅籠町というところで、築95年の木造の漬物の店舗と蔵を活用したレストランで商いをしている。現在、国土交通省の霞城改良として延長1.3km、幅員31mの4車線、歩道の幅員が5.5mの街路整備が入っている。建物は登録文化財の指定もいただいているが、道路の拡張には、基本的に大いに歓迎である。ただ人口減少の時代にはいり、交流人口の増加を考えると、単に街並みが新しくなり、たたずまいや通のイメージを壊したのでは、魅力がない。道路作りの手法において、たたずまいや景観がうまく連携していないと感じている。日本中がどこの通も一緒になってきている。地方都市の個性を沿道にいかにかに散りばめるかが、非常に大事と考え、このようなライフワークをおこなっている。その土地の個性は、残された歴史であり、人物であり、食べ物であり、風習であり、これを体験体感していただくことが、最高のごちそうであり、おもてなしであると考えている。

## 浅倉

去年、新関さんから店の前の道路が拡がるので、立退かなくてはならない。沿道の趣のある店はすべて立ち退きだと聞いたとき、大ショックだったのを思えている。歴史ある店を壊してまでも緩和しなければならないほど渋滞なのだろうか、と思った。そこで廣瀬さんにお聞きしたいのだが、道路の計画というのは、見直しや変更は出来ないものなのだろうか。

## 廣瀬

直轄国道は車を流すというのが、重要な役割である。国道 112 号は、鉄道を横断する必要がある、歩行者も多く、除雪もたいへん。一方七日町通は、112 号であるが、歩行者を優先する賑わいの空間にすべき。このため一本西側の新関さんの前の道路を広げることになった。

道路の計画は、実は柔軟に見直しできる。現在の計画は昭和 43 年の都市計画法の改正時に大幅な見直しをして、それが基本となっている。できるだけ都市計画も見直すべき、柔軟にすべき。川越の街路も蔵を潰す計画を見直し、現在の形にした。角館も枡形を残すために、都市計画を見直し車は外側を通した。いずれも住民の皆さんとかなりの時間を要し見直している。

## 浅倉

それでは、まとめを小林さんからどうぞ。

## 小林

道路づくりに関しても、昭和 43 年法に基づいて系統的に整備が進められてきた。確かに、道路を作ることで、街を壊してきた側面もある。しかし、特に中心市街地においては、これは街のアクセシビリティを高めるためにやってきたことであり、かならずしも渋滞を緩和するだけのためにやってきたのではない。問題は道路だけでアクセシビリティが高められるわけではないということ。いかに車から人を降ろすかを考えなければならないし、いろんな交通手段をいかに組合せ、効率の良いものをつくってゆくのか、あるいは高齢者の足をいかに確保するのかなど課題は多い。

景観は、変わっていくものであり創っていくもの。決して保存だけではない。伝統的建造物群保存地区があるのは、ごく一部の町に限られる。しかし普通の町も歴史があり、変化の中でその歴史をいかに活かしていくかが課題。アイデアをだして歴史的なものを活かしていく必要があり、また良い変化をつくり出すには物や環境や文化の見方をしっかりしたものにしなければならない。

## 浅倉

アイデアの話があったが、バスを利用すると最初は新鮮だが、すぐに慣れてしまう。バスに乗ること自体が楽しくなるような、車内での仕掛けや工夫があれば、みんなバスに乗るのではないのか。

## 新関

道路づくり、街づくり、街並み作りを一緒にやっていかなければならない。何も保存する必要はない。どんどん利用して活用すべき、旧県庁舎は、石畳の中庭や前庭はフル稼働してもおもしろい空間、それを 4 年前から花笠祭りの 3 日間に限ってビヤホールにしている。なんでもっと早くからしなかったんだとの声がある。ガラスの箱に置いて大事にしまって保存しては、だめ。活用することこそが大事。大切さの根底だけは守って大いにいじって活用すべき。



## 小林

景観は創っていくものだが、壊して良いと言っているのではない。古びたもの、歴史あるものには常に謙虚であるべき。創造的な保全こそが大事。ごくありふれた普通の街でこそ、景観をマネジメントすることが大事。

## 浅倉

道路が工事中のとき、案内看板が殺伐として楽しくない。造る人と利用する人が気持ち良いコミュニケーションをとれるような看板を設置すればいいのにと思っている。

## 廣瀬

中期計画のアンケートでは、苦情が一番多かったのは道路工事だった。道路工事は、公共のものだけではないのだが、何の工事をしているかはっきりしようと心がけている。

小林先生の「視点の共有化」や新関さんの「中味の良さを見つける」の件だが、街づくりにしても、路づくりにしても、昔は、ルールを当てはめてそのとおりにやるのが我々の仕事であった。これからは、ルールを変えることも含めていろんな人々と議論をして造っていく、運営していくところが重要である。最近では地元の人でもその街の良さを見つけるようになってきた。外から来た方がどう見えるかも議論して、視点の共有化を図って、街をどうするかを議論することが重要。そういうことをやった街は、勝ち残っていけるのではないのか。

平成 19 年 11 月 15 日  
メトロポリタン山形（山形市）にて